

[HOME](#)
[感染予防の基本](#)
[感染症情報](#)
[感染症に関するQ & A](#)
[感染症専門家コラム](#)
[会員専用コーナー](#)
[製品情報](#)
[お問い合わせ](#)
[HOME](#) > [会員専用コーナー](#) > [健康経営ジャーナル—企業の今から学ぶ!—](#) > vol.7:海外派遣企業の頼み綱

Menu

- ▶ [健康経営ジャーナル—企業の今から学ぶ!—](#)
- ▶ [冊子「感染と予防」PDF購読](#)

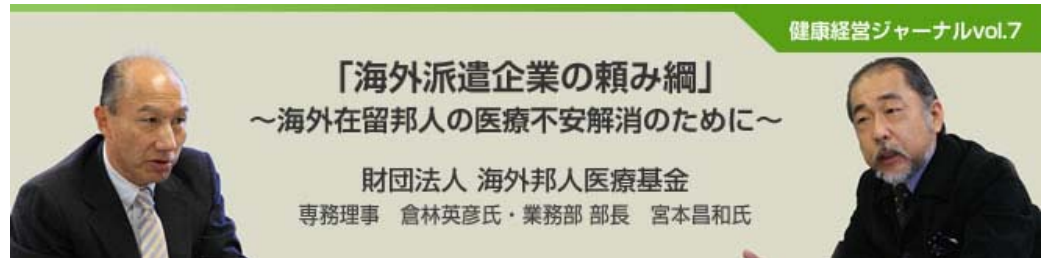
バックナンバー

- ▶ [vol.7:海外派遣企業の頼み綱](#)
- ▶ [vol.6:企業に求められる健康経営](#)
- ▶ [vol.5:社員の自律力向上サポート](#)
- ▶ [vol.4:企業の健康リスク管理](#)
- ▶ [vol.3:街と暮らす企業が目指す安心・安全社会](#)
- ▶ [vol.2:毎朝の検温で健康に!](#)
- ▶ [vol.1:CSRが担う!企業\(感染症\)の危機管理](#)

人気ページ Ranking

会員専用コーナー

健康経営ジャーナル—企業の今から学ぶ!—



専務理事 倉林英彦氏 プロフィール

1975年早稲田大学を卒業後、富士通㈱に入社し海外事業部門(コンピュータシステムの営業、マーケティング)に在籍。1984年から台北、1998年からジャカルタとクアラルンプールに駐在するなど、海外生活は約10年。2003年に帰国後は、グローバル営業部門で海外進出の日系企業向けマーケティングなどを担当。2009年4月より現職。

業務部 部長 宮本昌和氏 プロフィール

1980年松下電器産業㈱入社。本社海外宣伝部で全世界向け企業宣伝を担当し、その後ビデオ事業部で商品宣伝と中国向け営業、中国本部でシステム営業と入札対応ののち、北京にてソリューションセンターを立ち上げ、日本に帰国後、台湾新幹線プロジェクト推進の中でプロジェクト管理、法務・(台湾)税務・コンプライアンスを担当。2009年4月からJOMFに転出。中国の衛生情報収集と情報発信を担当。中国衛生部情報の翻訳・分析と発信をボランティアベースで展開中。

基金の概要

🔑 主な活動内容について教えてください。

倉林氏



当基金は、1984年に設立されました。

以後、(1)海外診療所の運営支援として、在留邦人の多い都市(シンガポール、マニラ、ジャカルタ、大連)への医師派遣、(2)邦人医師の現地出張による海外健康相談の実施、(3)ウェブや小冊子などでの情報発信と、ウェブや電話・メール等による医療健康相談(会員企業社員向け)などを実施しています。IT化も進んできており、この種の情報発信の強化をしてゆかねば会員の期待には応えられないと感じています。

📅 増加する日本企業の海外進出

🔑 会員企業様の特色について教えてください。

倉林氏

会員数は現在約200社ありますが、数百~千人規模で社員およびご家族が海外に赴任されている企業から数人規模の企業まで種々です。メーカー(特に電気や自動車関係)や商社の場合は、駐在者数が多いですね。

🔑 海外進出というと、近年はアジアへの進出が目立っていますが。

倉林氏

確かに、外務省統計(2009年10月時点での推計速報ベース)では、在留邦人総数は113万人となっております。米国が38万人強で北米地域のトップは1985年以来変わらないのですが、中国の13万人弱をはじめとしてアジアのプレゼンスが依然高いですね。

また、インドなど新興国市場への投資も積極的であり、この地域での医療面は特に課題も多く、今後の支援が重要だと思います。

宮本氏

グローバル化が進んでくると現地人指導者層の育成のために、日本に研修に来られる方の数も増え

てくる可能性は大きいです。

実際、この夏にも中国から大量の中国人研修生を受け入れた企業から、「日本生活をしていくうえで想定できるリスク分析とその原因、対応策を教えてください」といったリクエストも「医療基金」という立場を超えて寄せられてきました。私の方で、自分の過去の経験とノウハウから纏めたリスク分析・対応表を完成したのちに、中国人評論家や中国から日本に来ている知人や、会社の関係者からの意見も入れて若干修正し、その企業の方にご回答したのですが、その後、基金の会員にもなっていただきましたし、その後も彼らのメンタルヘルスや女性特有の病気への困りごとなどの質問を通じてやり取りを続けています。

一つのきっかけで長い付き合いになればこんなにうれしいことはありません。



🔑 現在、海外進出企業で危惧される問題点は？

倉林氏 10月29日に開かれた情報交換会のアンケート125名の回答を分析してみると、「感染症対策」だけではなく「家族も含めた赴任者へのメンタルヘルス対策」や「生活習慣病を持った人の赴任対策」などについて会員企業の方が困っているという姿が見えてきているので、今後のセミナーのテーマとして対応をしてゆかねばならないと思っています。

🔑 海外進出が増加し、企業は様々な悩みを抱えられているのですね。

宮本氏 それと同時に、折角基金から情報が発信されていても窓口の方で情報がストップしてしまっているという事実も明らかになってきており、セミナーや情報交換会などで知り合った方とは「長いおつきあい」をしてもらえるような工夫も重要です。海外法人医療基金(以下、JOMF)からの発信情報を人事総務の担当窓口で止まらせない工夫なんですね。

セミナーや交換会に参加された方、また我々が会った方たちは「顔が見える関係」になってきています。今、JOMFでは「一度でもセミナーにご参加戴いた方たちは医療に感心を持って戴いている方たち」ととらえ、基金メンバーリストに加え、定期発信のニュースレター等発信させていただいています。

🔑 最後にメッセージを。

倉林氏 これまでの活動をもとに、国内外問わず、それぞれの活動について拡充を図っていききたいと思います。活動内容は可視化を図り、JOMFへの理解を会員企業の方に深めて戴き、結果的に「JOMFの会員でよかった！」とっていただけるように仕上げるのが重要と認識しています。

宮本氏 会員企業へのこまめなコンタクトができていないことも多く、会員企業の方に顔も覚えてもらえていないという事例が少なくありません。そんなところから、「JOMFのファンづくり(=理解者、支持者づくり)」が大切であると考えています。
ニュースレター(月刊)については「読んで楽しく、読んで為になる」を、セミナーについても「参加して楽しく、参加して為になる」をモットーに今後も取り組んでいきます。

実際、企業人事や産業医も含めてニュースレターを読んだ方たち、或いは中国衛生部情報の翻訳を見た方たちからファンメールが届いてみて、手ごたえを感じている今日この頃ですので、この輪がどんどん大きくなるようにしてゆきたいと思っています。



🔑 海外赴任者の方にとって、とても心強い見方ですね！貴重なお話、ありがとうございました。

(聞き手:「感染と予防」編集長 鎌倉 直樹)

感染症情報

近年話題の感染症／毎年流行する感染症
食中毒を引き起こすウイルス
子どもに関する感染症
動物に関する感染症

動物に関する感染症
血液感染するウイルス
感染予防(手洗い、うがいなど)
その他

会員専用コーナー

健康経営ジャーナル - 企業の今から学ぶ！ -
冊子「感染と予防」PDF購読

お問い合わせ

メルマガ購読・変更・解除
セミナー・展示会情報
サラヤスタッフブログ
利用規約

サラヤ株式会社 〒546-0013 大阪市東住吉区湯里2-2-8 TEL: 06-6797-2525

Copyright© 2006-2010 Saraya Co.,Ltd. All Rights Reserved.